

幕別町議会議員の定数及び議員報酬の あり方調査特別委員会会議録

- 1 日 時 令和8年5月1日
開 会 午後1時30分
閉 会 午後3時29分
- 2 場 所 役場3階委員会室
- 3 出 席 者 畠山美和 塚本逸彦 山端隆治 内山美穂子 小田新紀 長谷陽子
酒井はやみ 荒貴賀 野原恵子 石川康弘 岡本眞利子 小島智恵
藤谷謹至 田口廣之 谷口和弥 藤原孟 中橋友子
議長 寺林俊幸
- 4 職務のため出席した議会事務局職員
局長 佐藤勝博 議事課長 岩岡夢貴 係長 渡辺 優
- 5 審査事件 1 団体と議会の意見交換会の結果報告について
2 議論の進め方について
3 次回の開催日程について
4 その他
- 6 議事概要 別紙のとおり

幕別町議会議員の定数及び議員報酬のあり方調査特別委員会委員長

中橋友子

◇ 内容

(開会 13:30)

- 委員長(中橋友子) ただいまから第4回幕別町議会議員の定数及び議員報酬のあり方調査特別委員会を開催いたします。
ここで、諸般の報告をいたします。
議会事務局長。
- 議会事務局長(佐藤勝博) 本日、長谷委員から、遅参する旨の届け出がありましたのでご報告いたします。
- 委員長(中橋友子) それでは、早速議案に入らせていただきます。
初めに、議案の1 団体と議会の意見交換会の結果についてを議題といたします。
前回の本特別委員会で決定いたしました、各種団体との意見交換会につきましては、4月6日から21日までの間に、6団体、計38人の役員の方々のご参加をいただき、開催したところであります。残念ながら、幕別町PTA連合会、子育てサークルママチャリの2団体につきましては、相手方との調整が整わず、開催を見送ることといたしました。6団体の役員の方々との意見交換では、直接、様々な声をお聞きすることができましたことは大変貴重な機会でありましたし、有意義な時間であったかと思っております。今日はこの意見交換会での内容について、まずは事務局で取りまとめた報告書の案につきまして、これをもとに各グループ内の委員からご報告をいただき、そして全体での共有を図るとともに、今後の議論に生かすため、報告書案を精査して参りたいと考えております。
初めに、報告書案の構成について、事務局より説明を求めます。
議会事務局長。
- 議会事務局長(佐藤勝博) 本日配布をしております、令和8年度団体と議会の意見交換会報告書案の構成についてご説明をいたします。
資料をご覧くださいと思います。
初めに、表紙の次のページにあります、目次をご覧ください。
本資料は、1、開催状況と2、会議録概要で構成をしております。
1ページをご覧ください。
開催状況についてであります。開催日時及び団体名、会場、参加人数を記載しておりますが、先ほど委員長から説明がありました通り、本年4月6日から21日までの期間で6団体、計38人の役員の方々のご参加をいただき、意見交換会を開催したところであります。
次に2ページをご覧ください。
2ページから11ページまでは、会議録の概要として、各団体との意見交換の内容について記載しております。内容につきましては、この後、各グループの委員からご報告をいただきますが、意見交換の中でテーマとした議員定数や議員報酬の他、議会活動や要望事項などについて、各団体から寄せられたご意見等をまとめております。
最後に、12ページには写真を掲載しているところであります。
報告書案の構成についての説明は以上であります。
- 委員長(中橋友子) ただいま、事務局から報告書案の構成について説明がありました。

この内容につきまして、ご質問等がある方は挙手をお願いいたします。

(なしの声あり)

- 委員長（中橋友子） それでは、次に各団体との意見交換の内容について、開催日の順に、1件ずつ各グループを代表し、各常任委員長からご報告をいただき、その後に質疑を行って参りたいと思います。

では、初めに、4月6日の幕別町農業協同組合の青年部と女性部との意見交換の内容につきまして、産建グループの内山委員から報告をお願いいたします。

- 委員（内山美穂子） 皆さんのお手元に会議録の資料がありますがけれども、様々な意見の交換ができて、減らすべきということで、ここにある5つの内容の意見が示してあります。現状維持ということで……。ごめんなさい、全部書いてあるので、読み上げなくてお目通しでもいいですか。

- 委員長（中橋友子） 特徴的な所を言っただけだと助かるんですけども、よろしいですか。

内山委員。

- 委員（内山美穂子） わかりました。青年部と女性部で意見交換をする中で、結構議会の活動が知られていないというのがわかりました。毎日出かけて、議場に行っているのか、いろんなお金の面でこのくらいもらっているのを知らなかったといったことで、こういった意見交換をするというのは、すごく身近に感じられるし、大変よかったという声も聞きました。定数につきましては、減らすべきという意見もありましたけれども、現状維持という意見もありました。現状維持やこれ以上減らさないという意見の中では、若い人は、現に本業がある中で、議員活動をしたいと思っているので、そう考えてみると、日中の議会活動といったことが少し難しいのではないかという意見はありました。また、減らすべきという考えもありましたし、やはり、こういうことは、双方でやりとりをしながら、いろんなことを理解していくような形になってすごくよかったという声も聞きました。

報酬に関しては、特徴的だったのが、私たちがお示ししている21万円という数字は、月額報酬であって、期末手当を入れると、かなり価格が高くなるのではないかという声がありました。なので、期末手当を入れるということを考えたときに、生活できないぐらいの水準だとは思わないという声もありました。特徴的なのは、話をしている中で、青年部の方からは、意欲的に議員を自分も将来的にやってみたいという声も何人かから聞きましたので、こうしたやりとりを通じて、町政に関わる議員になって、いろんなまちづくりをしていきたいという声を拾っていくのも議会の役割かなと思いました。

以上です。

- 委員長（中橋友子） 私も参加させていただきましたので、若干付け加えますと、報酬を増やすことで、立候補は増えるのかという率直な意見もありました。前回の選挙が無投票だったということを最初に説明して始まっていたものですから、報酬を上げること、あるいは定数を変えることで、そこは解消できるんですかという率直な意見がありました。あと、全体の中での要望事項として、議会だよりの改革はもっと手がけて欲しいということもありました。そのことをちょっと足させていただきました。

- 委員長（中橋友子） 今の報告に対するご質問等、あるいは参加された議員の皆さんで、

さらにということがありましたら、付け加えていただけますか。

産業建設常任委員会の皆さんいかがでしょうか。よろしいですか。なければ、次に移りたいと思います。

(なしの声あり)

- 委員長（中橋友子） 最初は不足していること、あるいは、考え方をお尋ねしたところですが、他の方たちで今の報告に対して、もう少し説明して欲しいというようなことも含めて、質疑がありましたらお受けいたします。

(なしの声あり)

- 委員長（中橋友子） では、次に進みますが、意見を出しそびれたとか、質問をできなかったということの後で気づきましたら、一括して出していただいて構いません。まずは次の説明に入らせていただきたいと思います。よろしいですか。

(はいの声あり)

- 委員長（中橋友子） それでは、農業団体の青年部女性部の報告はこれで終わりとして、次に、翌日の4月7日に行いました幕別町老人クラブ連合会との意見交換について、民生グループの岡本委員からご報告をお願いいたします。

岡本副委員長。

- 副委員長（岡本眞利子） 老人クラブ連合会との意見交換であります。とても和やかな雰囲気が始まることができまして、連合会の方からもこのような機会を設けていただいてすごく嬉しいというお言葉をいただきまして、意見交換会が始まりました。中身の方は意外に言われる通りのこと、本当に思っている通りのこととおっしゃっていましたが、今、どこの町でも人口減少が進んでいる中で、議員のなり手がいないというところから、人口が減ったから議員も減らすというのはどうなのだとおっしゃっておられました。そして今の住民自体も、あなた任せになっているところも多いのではないかと。また、選挙で無投票になっている、投票率が低いということも町民にも、原因があるのではないかと、余りにも無責任な感じで、あなた任せになっているから、投票率も上がってこないのではないかと意見をいただきました。

また、報酬の面にしても、議員報酬は生活給ではないということは議会側の建前であって、生活が成り立たなければ若い人たちが選挙に出てくるとはならないのではないかと声をいただいたということで、とても親身に考えていただいた意見だなと私は感じました。

以上です。

- 委員長（中橋友子） ありがとうございます。一緒に参加された、民生委員の皆さんで、さらにご発言いただけることはないでしょうか。

酒井委員。

- 委員（酒井はやみ） 補足しますと、農業をされている方が、その中におられましたけれど、幕別の基幹産業は農業だから、農業の振興が今すごく大事だけれど、農業出身の議員さんが少しずつ減ってきていて、農業政策をどうするかということが議論にきちっとなっていてもらえるのかというのがすごく心配だという声がありました。その方は定数が減ると、ますますそういう傾向にならざるを得ないのではないかと、危機感を持っているという話がありました。

○委員長（中橋友子） 他にどうでしょうか。

藤谷委員。

○委員（藤谷謹至） 老人クラブからは、広報紙のことがありまして、やはり、高齢になると、字が小さくて見えないということで、その場で、広報委員長がおられたので、広報紙についても作る上で、十二分に参考させていただいて、とても参考になりました。

○委員長（中橋友子） 農業議員が減ってきているということと、広報紙の字が小さいというお話がありました。

民生常任委員の方よろしいですか。なければ、次に移りたいと思いますけど、よろしいですか。

（はいの声あり）

○委員長（中橋友子） それでは、次に、4月8日の幕別町民生委員児童委員協議会との意見交換会が行われました。ここも民生グループの岡本副委員長からお願いしたいと思います。

岡本副委員長。

○副委員長（岡本眞利子） 報告書案にも書いてありますが、まず、報酬を議論する前に、できる限り定数を減らしていくべきではないかというお声をいただいて、例えば現状の19人から15人ぐらいに考えてもどうなのかという声をいただきました。その中でも、やる気のある若者が生活をかけて立候補できる環境を作っていくことが大切ではないかという声がありました。そして、まとめてしまいますが、隣の音更町が、来期からは18人になるということで、18人でできるからそうしたのかということで、私達も18人でできるからということ、聞いてはいないですけれども、幕別町は19人で定数はどうなのだというふうにいただきましたけれども、そういうところから、やる気のある若者が生活をかけて立候補ができるような環境を、これから作らなければいけないのではないかなという意見がすごく印象に残っています。

○委員長（中橋友子） それでは、さらに付け加えることがあったら、ご発言願います。

民生常任委員の方、いかがでしょうか。

なければ、次に進んで、最後にということにしたいと思います。よろしいですか。

（はいの声あり）

○委員長（中橋友子） それでは、飛びまして4月16日になりますが、幕別町の商工青年部との意見交換会が行われました。ここは産建グループの内山委員から報告をお願いいたします。

内山委員。

○委員（内山美穂子） 先ほど、JAの意見交換会のお話して、内容が重なるところもあるんですけども、商工会の青年部とは1月にも意見交換をいたしました。1月の意見交換の中でも、議員の定数、報酬についてふれたりしている部分もありましたので、今回はより和やかな感じで、お話ができたかなと思っています。この中で、一番私が印象深く思ったのは、350万という金額が生活を維持できないぐらい低水準なのか、低水準と考えていること自体がわからないと話をしておりました。実際に商工会の青年部というのは自分たちで事業をして働いて、収入を得ているわけですから、そういった見方もあるのではないかと思います。

定数に関しては、議員に専念するという状況の人があまりいないので、自分の本業の仕事をしながら、議員をやってみたいという考えの人が多くて、報酬を上げて、実際になり手が増えるのかというところで疑問を持っているのではないかと思いました。また、例えば一般質問した後の成果についてだとか、いろんな質問がありました。結構関心を持っている方が多かったのではないかと感じました。だから、若い世代がこれから手を挙げて、議員としてやっていくためには、単に報酬を上げればいいのかという単純なものではないのかなというのを意見交換会の中で感じました。

以上です。

○委員長（中橋友子） ありがとうございます。

産建グループの参加された皆さん、さらにお伝えしていただけることがありましたら、挙手を願います。

野原委員。

○委員（野原恵子） 意見の中で、選挙で優秀な人がということをおっしゃっていますが、そうでありたいけれども、優秀という尺度は違うのではないかと。選挙で優秀な人は選んでいるわけではないので、町民の声を第一に頑張っていたらいいという声が出されておりました。参加された中で、定数削減ではないという意見が出されておりました。選挙に出たい意思があるという方も、実際に声を上げた若い方がいました。やはり、今回の懇談会の中で、この商工会青年部が一番若い方が、参加されたのかなと思っていて、こういう声を大事にしていくということも、正しいかなと思いました。

以上です。

○委員長（中橋友子） 他の方はいかがでしょうか。

小島委員。

○委員（小島智恵） 私、産建の委員ですけれども、この報告書案に載らないのかもしれませんが、若い方々に具体的な報酬の額、議員としてどのぐらいが望ましいと思うのかと思ったんですけど、意見交換の中で聞けなかったものでして、内山委員長の方から、閉じた直後に2名から聞いてもらったんですけども、2名の方がともに、21万2,000円プラス5万円ぐらいが望ましいということは、聞いておまして、情報としてお伝えしておきます。

○委員長（中橋友子） はい、ありがとうございます。

他に、このグループからお伝えいただけることありますか。

（なしの声あり）

○委員長（中橋友子） それでは、最後になりますが、4月21日に幕別町の文化協会と幕別町スポーツ協会との意見交換会が、総務文教常任委員の皆さんと行われました。荒委員から報告をお願いしたいと思います。

荒委員。

○委員長（荒 貴賀） 記載の通りですが、かなり厳しいご意見をいただきました。人口減少社会に合わせた削減というのは、これは切っても切り離せないのではないかとご意見がありました。そういった話がある中で、やはり、議員になりたくてもなれないという兼業禁止規定というのが実はあるというお話もある中で、制度的に出れないという話もありました。他にも、減らすべきだという声以外にも、他にも人口が近いからと

か、他町がこうだからという意味で比較して、横並びに人数や報酬を決めることに、僕は違和感を感じるという方もいらっしゃいました。様々なご意見があるなど感じたところでもあります。やはり、町民から見て議員が何をしているのか見えないというところに尽きると感じました。こういった話もありますので、私たちは、真摯に受けとめて、今後の活動を考えていかなければならない。大変とても良い機会であったかなと思いました。あとは、議員報酬は、生活給ではなくて、活動の対価だということを認識して欲しいという厳しいご意見も聞こえたところでもあります。

○委員長（中橋友子） それでは、総務文教常任委員の方で、さらにご報告いただけることがあったらお願いしたいと思います。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 参加しやすい条件の案が色々出てきまして、例えば、夜間議会とか、土日開催して欲しいという意見もありました。また、4回の定例会ではなく、通年議会という声もありました。一般の方から見たら、もっと仕事しろみたいな感じかもしれないけれど、やはり通年やって、常に活動している姿が届いていることが一般的に認識される。それ以外の見えない部分の仕事が中々住民の方には伝わってないという表れかと思いました。

13 : 56

（長谷議員入室）

○委員長（中橋友子） 他に、総文の方で、他にいらっしゃいませんか。

（なしの声あり）

○委員長（中橋友子） 以上で、今回の意見交換会を行ったグループからの報告は、以上の中身でありました。ただいま報告をいただきました他にありましたら、言っていたきたいですが、そこに参加されなかった委員の方もいらっしゃるわけですから、事前にこれも送っていただいていたということもありますので、率直にこの中身に対して感じられたこと、あるいはこの仕分けの仕方はどうなのだとということ、一応分類してまとめていただきましたのでね。そんなことであるとか、いやいやもっとこうではなかったかっていうな、意見交換会を通しての今の皆さんにそれぞれこれは発言しておきたいというなことがありましたら、出していただきたいなと思います。

谷口委員。

○委員（谷口和弥） この報告書のことから少しずれますけども、報告会に参加した町民の方から話をする機会がありまして、その人から見たこの懇談会がどうだったかということの中で、やはり特徴的な部分をご本人の口から出るものですから、そのことの報告をしたいと思います。

どこの委員会という言い方はしませんけれども、特別委員会委員長が、主に答えることになってしまっていて、他の議員さんたちの考えがわからない。聞いても答えが返ってこない。ちゃんと喋れていない。そういう委員会が、1つではないです。そういうのがあって、議員の力量そのものがどうだったかということを疑う目であるという意見を、複数人お話を聞くことができました。色々議会事務局の皆さんが、セッティングしていただいた中で、こちらの構えがまだまだ不十分であったなという印象を受けたというこ

とを報告させていただきたいなと思います。

○委員長（中橋友子） 内容については、特にありませんでしたか。

谷口委員。

○委員（谷口和弥） あるんだけど、個人名を出されていることもあるし、ここでは差し控えます。

○委員長（中橋友子） わかりました。会議の持ち方、流れも含めての今のご意見でありました。このことで、町民の方から聞いただけではなく、自分たちが参加して感じたということもあれば、この機会に発言していただければと思います。

荒委員。

○委員（荒 貴賀） 委員長という立場で今回司会をさせていただいて、どうやってやればいいのかという、かなり試行錯誤な状況が正直ありました。やはり全体指揮を委員長がやる中で、司会だけに回るという状況で、すごくやりにくいというのが正直でした。実は、委員長の方から事前に谷口委員が言われた通り、一部の議員しか話していなかったということをお聞きして、総文の方でそういったことがないように、委員長と相談して心がけて、なるべくしゃべらないように委員の方に目くばせをして、しゃべってもらうということで、少し図らせていただきました。よかったかどうかというところで、色々あるんですけど、私の仕切りが良くなかったので、うまく回らなかったかなというのは思っているところになります。すごくいい機会だったので、機会をもっと多くとって、私自身もこういった機会にしっかりと取り組めるようにということは、重要だなという反省を込めて発言させてもらいました。

○委員長（中橋友子） 他の皆様いかがでしょうか。

小田委員。

○委員（小田新紀） 自分も1回のみでしたけれども、参加させていただきました。そこでも直接いただいた意見を聞いていたりとか、今、こちらで報告をいただいた他のグループの内容のご意見を確認させていただいて、以前から何回か行った懇談会も含めて、町民の皆さんからいただいたご意見について、これまで議会運営委員会や全員協議会で、各委員さんから様々なご意見を出されたわけですけど、大きな枠でいくとその枠からそんなに外れるような意見はないというか、皆さん考えることは一緒だなというような感想を持っています。だからこそ聞いた意味があると思っておりますけれども、やはり町民の皆さんも同じような考えをそれぞれの立場で考えているなという中で、ある意味これまで議論してきたことの後ろ楯になるのではないかなと感じます。なので、今後、そういった意見をいただいたわけですので、これまでの議論をもとに、ある程度議員の責任として、我々の責任として、方向性をしっかりと見出していくということが必要だと、自分たちの責任の中で出していくということが必要だと感想を持っているところです。

○委員長（中橋友子） ありがとうございます。

長谷委員。

○委員（長谷陽子） すいません。遅れてしまいました。

実はですね、私も1年生議員ということで意見を述べさせられたんですけども、実は、私、町民を混乱をさせるような発言とかは、慎むようにというようなことが頭の中にずっとあって、変なことを言っただけはいけないんだなというようなブレーキになってし

まいまして、気持ちとかそういうのはちょっと言えなかったなと思っています。来てくださった方はすごいざりとおしゃっていて、私たちは幼稚だったのだなと思ったりしました。私の中では、申し訳ないですけども、何十年と議員をやっている人たちがいて、自分たちのこともまとめられないということに対しては、私自身は失望しています。あそこまでやらなければいけないのかなという感想です。

以上です。申し訳ありません。

- 委員長（中橋友子） はい、わかりました。ご意見ですので。まだ発言されてない方がいらっしゃるけれど、無理にということではありませんが、この際ですから思うところ、5回の懇談会を通して思ったこと、今のような率直なご意見もいただくのがこの場だと思しますので、出してください。

酒井委員。

- 委員（酒井はやみ） 本当に様々な意見を率直に寄せられたということは、皆さん共通して持っておられると思うんですけども、もう1つ共通しているなと思ったのが、本当にこういう場を持ったことが還元されたということだったというふうに思いました。今回は報酬や定数について、増やすべきかどうかということの整理の仕方をしていただいたんですけども、単純に減らすべきか維持するべきか、上げるかどうかという、二択の意見として整理するだけじゃなくて、どうしてそう感じられたのかというその理由や背景まで含めて、やはり、私たち議会としては、丁寧に受けとめる必要があるのではないかなと思いました。定数については人口が減っていくから、減らすべきだという声がある一方で、数がいた方が考え方が多様で出されるだとか、現役世代が出やすくなるという声もあって、意見は大きく分かれているなという印象がありました。

報酬についても、若い人が出やすくなるとか、生活を支えるためには、引き上げが必要という意見がある一方で、議員が何をしているのか見えないし、そんなに成果がなければ、上げることに納得できないという厳しい意見もありました。そういう声は、二択の結論としてだけではなくて、その背景に議会や議員にもっと声を聞いて欲しい、意見交換の場を持って欲しい、もっと町民に見える身近な機会があって欲しいという期待や願い、それが十分感じられないということへの不信感が現れている問題に受けとめる必要があるのではないかなと思いました。

これだけ意見が分かれて、しかも、背景にもそうした思いが色々ある中で、今の段階で、結論に至るのは中々厳しいのではないかなと。議会としてはこうしましたと結論を説明するのもまた少し難しいのではないかなと思ったんです。今の議会として力をいれるのはこの議論をずっとやっていくことなのか、それとも今回投げかけられた議会に対する要望に答える。午前中に議運があったんですけども、議員学校だとかモニター制度だとか、議会のあり方をもっと改善させていく議論にもっと力を入れることが必要ではないかなと改めて思ったというところでした。

- 委員長（中橋友子） ありがとうございます。他いかがでしょうか。

岡本副委員長。

- 副委員長（岡本眞利子） 最初の方に戻ってしまいますけど、私もこの意見交換会、全部に参加をさせていただいたんですけども、一番最初、やはり委員長ともお話をしながら、2回目ぐらいから民生委員の老人クラブ連合でお話をしたときに、委員長がご挨拶

挨拶した後に、老人クラブ連合の方の会長がちょっと待ってくれと挨拶をさせてくれという事で、そこから挨拶が始まり、そして、今まで次第にはなかった議員の個人の自己紹介を、自己紹介した方がみんなわかりやすいですよというところからちょっと変わってきて、自己紹介をしながら和やかな感じで進めることができたんですけれども、委員長はできるだけあんまりしゃべらないからとおっしゃってくれて、それで皆さんに少しでもしゃべってもらうようにとすごく気を使っていたんですよね。そういうふうな感じで進めていながらこういう意見が出てきたんですけれども、すごく貴重な意見であり、そして私たちが無投票だったということを重く受けとめているんですけれども、そういうことからこういう意見交換会ということが始まり、どのようにしていったらいいかという先を見据えて、この意見交換会だったと思うんですけれども、そのようなことで、私も司会で民生出させていただいて、本当に荒委員が言われたように、難しいんですよ。普段の話をしながらどうですかという意見ではなかったの、報酬と議員定数と決められた中から、何かご意見ありませんかというのは中々難しかったかなというのが今回の反省点ではあったかなと感じました。

○委員長（中橋友子） ありがとうございます。

内山委員。

○委員（内山美穂子） 私も産建の委員長として、一応ファシリテーターという形でしたんですけれども、トップバッターだったので、やり方がまだ初めての状況で、手探りで始めたわけです。一応次第はあったんですけれども、最初に委員長の挨拶に始まって、質疑を受けていくんですけれども、委員長に答えてもらった方がいいのか、自分が答えていいのかとか、その辺のところも最初打ち合わせも何もしていなかったの、最初はほとんど中橋委員長に答えてもらう形にはなったんですけれども、それではまずいということで、その次から委員にも声をかけるような形に変わっていったと思います。中々皆さんの声を引き出すということが、大事だと思っていましたので、その辺については、難しいものもあったんですけれども、もしかしたら、だんだん後半良くなっていったんではないかなと思った一番最初の産建でした。

○委員長（中橋友子） ご苦労様でした。ありがとうございます。

そんなことも含めて、本当に率直に感じられたこと、この運営の仕方でも結構です。どんどん良くしていかなければいけないと思いますので、お気づきのことはなんでも発言してください。

藤原委員。

○委員（藤原 孟） 私は皆さんがいろんな会議に参加している間、少し違う町へ行って意見交換してきました。その町は、人口が、幕別町は2万4,000人ほど、そこは1万7,000人。議員定数が、14人。町の面積は、幕別町が477平方キロメートル。そこも、面積が、300平方キロメートルですか。そこで、意見交換で言われたことは、まず、人口密度ではないんですけども、議員密度。要するに、町の面積はうちは合併したから増えましたけど、大体、町の人口は減っても町の面積が変わらないので、1人当たりの面積で、要するに密度を出したんだ。そうすると、当然、議員が減れば密度は大きくなる。それは、議員の存在価値がどんどん薄くなっていく。その市民の議員に対する課題の解決を議員に求めることは、ほとんどなくなってしまった。求めるのは、要するに行政、

各組合、協会、団体という人たちを通じて、自分がやりたいことを求めるようになった。議員の存在というのは、本当に薄くなっていくと言われてきました。我が町はずたれましたと。その町の市民で、非常に悔しい思いをするけども、当然、議員の数が減れば、町民と接触する機会が減るんだと。お前の町もその道を歩むのかと。なおかつ、それは行政にとって思う壺なんだと。議員がいろんな課題に絡んでくるよりも、行政指導でやる方がずっと役人は楽なんだよ。そういうまちづくりを進めるのかということと言われて、今反省して、なおかつ、これから勉強しなければならないと。やはりちょっと勉強不足行動不足だったのかなと思います。先ほど何十年議員やっていて、なんだろうと言われましたけど、それもその通りですね。ひどく反省はしている。やはりもっと町民と我々は、接触しなければ駄目なんだという思いでおります。

以上です。

- 委員長（中橋友子） 会そのもののご意見をお持ちではなかったですか。今回5回やった中で、藤原委員も参加されたところがあったと思いますが、運営の仕方も含めて今、皆さんから出していただいた意見やこの懇談会を持ったことに対してですね。

藤原委員。

- 委員（藤原 孟） 一番驚いたのは、老人クラブ連合会。その会長さんは町内というか北海道でも有名な百戦錬磨の方だと。その方が、ご意見というか考え方を教えていただきました。その中で、本当に喜んで、よく老人会を見つけて意見交換会してくれたなという喜びが、本当に私はびっくりしました。そういうところと接触できたということは、この会は私は非常によかったと思う。進め方は、それは委員長の経験があるのかなとか、それは色々あると思いますね。ただ、あのときの老人会の会長の意見が素晴らしかった。もっとこういうことをやったらいいのではないかなと思います。

- 委員長（中橋友子） ありがとうございます。

感想も含めて、外に出てお勉強してきたことも含めてご意見いただきましたけれど、それぞれ皆さんこういう機会ですから、これから今後、もしこういうことをやるのなら、こんな形、今までのやり方を生かした上で、改善も含めて、意見を出していただきたいですし、次どうしていくかということはもちろんご相談させてはいただくんですけども、せっかく幕別町の議会として、議会全体で団体と懇談会を行ったテーマは決まっていたけど、初めてだったのではないかと思うんですよね。したがって、今ここで、皆さんにご指摘いただいたように、進め方で不十分なことは本当にたくさんあったと私も思うんですけども、こういうのを開いてくれただけでもよかったんだというところは本当に重く受けとめて、これからの議会運営や改善には大きく生きてくるのではないかなと思ったところです。先ほど懇談会が終わった後についての報告をいただきましたけど、そういう場も中々今までなかったですよ。小島委員から発言がありましたけれど、参加された方が終わっても帰っていかれないんですよ。そこに止まって、残られた議員の皆さんと、何人かずつ話が続くということも、これは貴重な体験だったなと思いました。ぜひ、生かしていきましょう。一通りご意見いただいたところですが・・・。

小島委員。

- 委員（小島智恵） 個別の件に戻ってしまうんですけども、自分が所属していない委員会での意見交換なんですけど、10ページの、文化協会、スポーツ協会との意見の中で、

文化協会は予算が削られ、自己負担が増え、耐えている状況、各団体でも削減されている。これは町からの補助金かと思うんですけども、そのため、定数を維持して、報酬を上げるというのは、全く理解を得られないとおっしゃっているわけなんですけれども、当然ながらそういった各種団体と議会というのは別の組織であるというのは理解してはいるんですけども、ただ、この点について団体で活動されている町民の方の感情からしますと、理解できる面もあるかと思えます。それは恥ずかしながらそういった団体への補助金が削減されるということは私自身あまり実態把握してなかったものでして、それがいつからなっているのか。また、文化協会さんだけではなくて、各種団体さんまでどこまでそういった削減の影響を受けているのか調べればわかると思うんですけども、財政的なことで、削減されているのかなと思うんですけども、そういった財政の観点で少し実態の把握をしたほうがいいのかと思いました。直接お話聞いた委員の方で、何か情報がありましたら、お話いただいてもよろしいですけども。

○委員長（中橋友子） という投げかけであります。総務文教常任委員の方でどなたか、これに対しての受けとめ、ご発言いただけますか。

荒委員。

○委員（荒 貴賀） 文化協会さんに実は終わった後に少しお話を聞きまして、どういったところで削られていたのですかと聞きました。個別に聞いたんですけど、全体的には予算年間 30 万というのは変わってないらしいです。ただ違うのは、使用料の関係が発生したことによって、今までの予算では、運営することが困難。今までその金額で、やってきたのだけど、文化協会さんにはそういう軽減措置というのが、スポーツ団体もあるわけではないですが、ただ、今の予算では、これまでの運営ができないというお話をされて、結果的に削られるという意味で話されたというものでした。

○委員長（中橋友子） よろしいですか。公共施設の利用料が有料になったじゃないですか。それで文化協会の皆さんたちは、それを使って有料の分を払わなければいけないんだ。補助金が 30 万で変わってないのに、その分の支払いが増えたんだと。それを削減というふうにとということです。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 私も役員でございますので、非常に言いにくいんですけども、補助金自体は変わっていません。ただ、減免がなくなって、利用料も高くなって、その都度、教育委員会さんとのやりとりの中で工夫してやりくりしている状況です。また、以前は文化協会に所属していれば、減免とかがあったんですけど、今はそういったメリットがないので、文化協会から抜けていってしまうんですよ。そうすると、会費も集まらないんですよね。本年度も、先週も 1 人、先月ぐらいは 3 名ぐらい抜けてるんですよね。それで今、はっきり言って文化協会の存続の危機になっていて、なので非常に役員も頭を抱えているのですが、本当に、こちらとしてもアピールのしようがない。本当に文化を維持したいということで頑張っていらっしゃる。でも、現実的な問題、会員としては、会費を払った以上メリットがないと、やっぱりというところで、あとは高齢化もありますけどね。そういった部分の影響も大きいんですよね。だから、減免の部分というところが、補助金云々というよりも響いてきて、本体自体がもうやせ細ってしまって。文化協会がよく持ち回りで、今度は鹿追かな、大会があるんですけども、もう活動を

停止しているところがあったり、郡部はかえって役場の中にあるので、教育委員会の中で、文化協会という形になって、そちらの費用でやってもらえるんですけども、本当に外だしなので、その辺がやっぱり苦しいなというところを言われたかったと思うんですけどね。

○委員長（中橋友子） 詳しい実情、ありがとうございます。

野原委員。

○委員（野原恵子） 商工会青年部との懇談ですけども、私たちは若い人になるだけたくさん議員になって欲しい、手を挙げて欲しいということを懇談の中でお話ししたんですけども、やはり商工会の方はまだ若くて、働きながら議員となると、その議会のあり方。今のような状況では中々参加できないのではないかと。夜間の議会ですとか、議会をもう少し短くするとか、そういうようなことも検討してもらえれば、出やすいかなという意見も出されたと思うんですよね。そういう意味では、今回は報酬と定数だったんですけど、議会改革というところからもスタートしているのかなと思いますので、そういうことも検討しながら、いかに若い人に出てもらうかということも、これからの幕別の議会では考えていく必要があるのではないかと思います。

以上です。

○委員長（中橋友子） 谷口委員。

○委員（谷口和弥） この意見交換会を出て、言わねばならないなということで報告させてもらいます。今、産建グループの委員から出てるように、産建のグループはとても穏やかな雰囲気の中で、最初は緊張感もあったんだけど、話の中で目が輝いてこられ、議員になってみたいという声もあり、全然始まったときと違う、いつまでも帰らない、そんな会議になってよかったなということは1つあったんですが、ほかの総文や民生の懇談の対象となった人達は、各団体の代表の人達や側近の人たち、要するにその会そのもののことに責任持って答えられてきた。だけど、産業建設常任委員会の懇談会では、JA幕別も青年部と女性部で、言わば、組合長の周辺のところ、要するに、農業団体としての意見をちゃんと聞く機会として、これが設定がされたというふうになってないんだ。セッティングする中で、都合が合わなくてという中でつなげられたと思うと思えば、そうではなくて、最初からそこにしか出してないということであれば、これは、忖度しちゃった。農業団体の声を聞いたというふうに私は認識してないし、商工会についても、青年部だけに案内を出したということであれば、それは、商工業者を代表した人の意見を聞いたという言い方はできない。その団体の人と話したということ言えば、間違いでないけれど、今後やるのか、それとも、今回は反省として、これを話すのかということについては思いもあって、複雑な心境です。繰り返しになるけれども、農業団体商業団体の声を聞ききったという認識は私は持ててないということをお話させていただきます。

○委員長（中橋友子） 貴重なご意見ありがとうございます。

荒委員。

○委員（荒 貴賀） 今回の意見交換会ですけど、期間がかなり限られたので、総文では、1か所しか日程調整できなかったんです。声をかけて、今回すごくいいご意見を聞けたと思います。私自身もこういった機会もっと持つべきであろうと思っています。先ほど

小田委員の方から、結論を出すべきだという話がありましたが、どちらの決断を出すにしてもやはりもっと多くの団体等、こういった議会の姿を、もっとお伝えしていくという事はこういった形で活動してきたんだということを理解してもらった上で、提案していくことが必要だろうと思います。

- 委員長（中橋友子） だんだん提案も含めたご意見をいただいているところです。このこともみんなで相談して、みんなが決めた方向で、もっと話し合いが必要だということであれば、それはやるべきだと思いますし、それから時間がかかってきているというご意見も確かにあったと思います。そんなことも率直に意見を交わして、方向性を決めていきたい。それから先ほど酒井委員から、この出された意見も、ただ二者選択するような形ではなくて、もっとその中から町民の本音みたいなものをもっと共有する必要があるのではないかといいました。その辺は今の谷口委員の経済団体などはどうなのだという、聞いたことにはならないよということも含めて、皆さんご意見出していただけませんか。その上で、方向性を決めたいと思うんですけど、どうでしょうか。

藤谷委員。

- 委員（藤谷謹至） まず、今回の意見交換の関係で、私老人クラブと民生児童委員の記録をとっているんですけど、ここに発表させてもらっているんですけども、全員の意見の議員定数と議員報酬の考え方がまだ出てなかった。特に、民生児童委員の方が、批判的な意見を持つての方が長くしゃべって、全体の一人一人の議員定数と議員報酬の意見を聞けなかった。それで記録の中に、議運定数と議員報酬の記録があまり出てないんですよ。その辺がちょっと残念です。特に民生の方で、意見があって、他のことをもっとやったほうが議員としていいのではないかといい意見も出ていて、やはり、もうそろそろ議会の中でも、ある程度方向性を決めたほうがいいのではないかといい意見が、民生児童委員の中では多かったような気がします。

以上です。

- 委員長（中橋友子） それぞれの団体の個性みたいなものもありましたから、こういった意見交換をする中で、皆さん少しずつ見えてくるというか、共有できるかなと思います。他に何かありませんか。なければ、今出された中で、ここで皆さんと検討したいことを提案させてもらっていいですか。

それは、1つには、6団体と意見交換いたしました。でも、これは特に、経済団体の農協さん、商工会本部とはやっていないと、大事なところが抜けているのではないかといいご指摘ではなかったかとは思いますが、これをどうするか。今後、さらにせっかくここまで来たから、あと2団体やったほうがいいかどうかということ、それだけに限定しませんが、皆さんの意見を聞かせていただけますか。全然率直に言ってください。

荒委員。

- 委員（荒 貴賀） 私は先ほどもお話ししたんですけど、多くの団体とやるべきだと思います。議会は住民のための議会なんです。むしろ、住民側から議会の定数を減らせと言うのはむしろそっちの方がどうなのかなと思っています。議会があるからこそ住民の生活がよくなっていくとか、議会は住民のためにあるんだという地方自治の原点を考えたときに、やはり議会がどういったものかということをお知らせするとともに、議会が足りないところはしっかり受けとめて、その改善を受けて取り組んでいくということは、あ

る意味必要だろうと思う。結論を出すのはすぐにできるので、今やるべきことは、議論を重ねることではないかなと思います。

○委員長（中橋友子） 他にご意見ありますか。小田委員。

○委員（小田新紀） 今、荒委員おっしゃった通りで、多くの議論を重ねるということ、それから様々な団体さんから聞くということについてはその通りだと自分もちろん思いますが、ただ、その上で、団体に聞くということなので、やはりそこにしっかりと狙いが無いといけないのかなと思うんですね。最初の段階では本当に若い人たちの話を聞こうということで、青年部の皆さんに声かけしてもらったりとか、子育てのお母さんと、実現しなかったんですけども、本当に別の種類の文化、スポーツ協会とかね。それはある程度幅広くというのがあったと思うんですけども、今度どこなのというときには、ある程度こういう団体から、こういう意図があるから、そのこの団体に行くんだというような、はっきりとした狙いを持っていかないと、議論の積み重ねは大事なんですけれども、何かちょっと効果としては、高くないかなと思います。また、こちらの立場としても、今回の文化協会スポーツ協会の中での話もありましたが、議会としてどういう意図を持って、皆さん聞かれているんですかというようなご意見があったわけなんですけれども、その通りだなと思うんですよね。報酬上げたいからその言質をとるために、これやっているんですかとか、あるいは自分たちが決めてないから、我々に委ねているんですかというような、決してそういうことではないですけども、そういうふうに捉えているのを、不思議ではないと思うので、そういうこともしっかり説明した上で、こういう意見を聞くという場を設ける必要があるのかなとは思いますが。やるとしたら、今の自分の意見としては先ほども言ったことにちょっと重なってしまうんですけども、ある意味きりが無いという部分も思っています。この団体に聞きたいんだという狙いが皆さんの中にあれば、そこに限定していくというのもあるかと思うんですけど、その狙いがなければこの場合も、きりが無いと思いますし、ある程度議会としても、積み重ねた議論があって、皆さんが持っている確固たる意見があるわけなので、そこは、ある意味誇りを持って、進めていくべきではないかなと思いますし、それも意見で言いますが、議会で決めないのかと言われてることも最もなのかなと思うんですよね。ある程度ここまでやってきたわけなので、我々の責任のもとで、様々な今まで聞いてきた意見も参考にしながら、決めていくという方向えを進むべきじゃないかなと考えています。

○委員長（中橋友子） 他にどうでしょう。

酒井委員。

○委員（酒井はやみ） 私は先ほど老人クラブの会長さんが言われたことは、ご報告したんですけど、農協だとか商工会だとかは、やはり町の経済を大きく担っているところでもあって、先ほど小田委員が言われたように、こちらの意図があって今回は青年部だとか、いろんな分野のということで始めたんですけど、農業関係者の方の話を聞いて、改めて、そういった分野の方の意見を、そういう位置付けで聞くということは、大事かなと思いました。なので、私は、やったほうが良いのではないかなと思います。

○委員長（中橋友子） 小島委員。

○委員（小島智恵） 私が思うのはこういった意見交換とか、議運さんの方で、長い間時間かけてもできてますよね。そういった状況も見てきているんですけども、定数で言

えば本当に多様といいますか、意見が割れるんですよね。議員の間でも意見が割れる。町民の方に聞いたとしても、意見が割れるんですよね。だから、続けていってもおそらく同じような状況が続いていくのかなと思ひまして、小田委員おっしゃられるように、ある程度の時間も経てますので、議員の責任として、決めていく時期に来てるのではないかなと思います。あとは議員さん、それぞれが議員活動の中で、個々に聞いていくのは、もちろんそれはどんどんやっていただいて、結論の方に向かっていけたらなと思ひます。

○委員長（中橋友子） 畠山委員。

○委員（畠山美和） 今皆さんの意見を聞いてて、思ったんですけども、前回、定数を減らしたときも同じようなことをやっていたのかどうか。1人減らしましたよね、令和元年に19人に。その時に、私は普通の町民だったので、減ったんだぐらいしか思わなかったんですけど、こんだけ長い間時間をかけて、こういう議論をして、19にしたのかなと今ふと思つて。同じようなやり方だったら、致し方ないなと思ひますけど。今まで見てて検討することが今目的になっている気がするの。やはり、議会として、責任を持って決めていかないといけないと思ひるので、町民の皆様からも色々意見を聞いているんですけど、決められないのというのは先ほど言っていましたけど、本当にそれは聞きますので、しっかり、決めていかなければいけないのかなと思ひます。

○委員長（中橋友子） 谷口委員。

○委員（谷口和弥） なるべくしゃべらないようにと思ひていたけど、責任という言葉が出てくるんだけど、何をもって責任を果たしたところになるのかということについて、決めることが責任なんだ、そうではないのではないかなと思ひている。議員の一議席の、重さがどの程度のものであるかということも大事な判断をしなければいけない会議の中で、それを、慎重に決めるのは当たり前なこと、実際、議会運営委員会が、結論に至らなかったと、これは、ちゃんとした仕事をしてないというようには全然思つてなくて、言い方はいろいろですけども、そういう委員会ではないところに預けてしまったことの失敗だと思ひているんです。やることはやったんだけど、やり方が悪かったと思ひています。そういうことを、責任が取れてないぞと言うつもりはないんだよということ。責任というのは、そういったふうにするのではなくて、町民に対する責任。この議会の一議席の重さということがどうなるかということ、きちんと議論したほうがいいと思ひます。人口減というけども、今19人で1つ減らしたら、大体有権者が2万人ぐらい。そしたら千人分の意見がなくなるということ。そういうことから考えたら、人口が千人減るということは、どう減っていくのかわからないけども、大変なことであつてね。それを見越して、それが基準にならないよということは、意見交換会の中の意見にも出てきていますよね。意見交換会、今回、グループワークという形でやらなかったんだけど、このことの成果はあつたんだと思ひます。グループワークだったら、強い意見の人が仕切つてしまつて、固めてしまつて、それも失敗の一つだと思ひながらも、今回の議論の成果は、まだ続けてもあるものだと思ひし、この任期の中で決めることが責任だというふうには私は考えていないです。

○委員長（中橋友子） はい、ありがとうございます。他にございますか。

畠山委員から、前回のやり方はどうだったんですかという問い合わせがあつたもので

すから、前回 19 人にしたときに、席を置いてあった方がいらっしやると思うんですけども、確か前は、こういった団体の皆さんとか、あるいは町民の皆さんと、定数報酬を限定した意見交換会というのはやっていない。これは事実であります。やはりその時の構成メンバーの議員が、何をどう取り扱っていくかということを決めて運営するのが、民主的なやり方だということで。今回は、ちょっと繰り返しになってしまいますけれども、議会基本条例の見直しを、議会運営委員会が手がけると、これは議会の運営に関わって、責任を持つところですから、その中で、たくさんの課題を整理する中で、定数問題と報酬問題については、このことは、中々意見がまとまるということも、簡単ではないということが見通せたわけですから。したがってこのことについて、特化して議会運営委員会で議論をしていこうということがありました。議会運営委員会で議論をしましたが、ご承知の通り、今、谷口委員からも言われましたけれど、賛否を問うところではありませんので、従って、一本になるということにはなりません。これは私の考え方ですけども、一本にならないというのも一つの結論なんです。そこは申し上げておきたいと思うんですよ。決して決められなくて、ここまできてることではないんです。つまり、決めてないということは、今の段階で幕別町議会の態度としては、現状維持なんです。変えることを決められていないわけだから。それで、さらにこれからどうするかということで、特別委員会が設置されて、議論になっているということですから、議運でも、これだけに特化して話をするというよりはむしろ、通常の議会運営をやりながら、そこに議題の一つとして、定数問題、あるいは報酬問題を議論してきたという経過があります。したがって回数も、重ねました。これは無責任にだらだら決められなくてやってきたんではないということは、やはり皆さんにはわかっていただきたいなと思います。その上で、続きをやっていただければなと思います。

さらに団体の意見を聞く必要があるかどうかということでもありました。前は聞かないでやってきました。今、ここまで来たんだから、結論は同じじゃないかっていう意見と、農協とか商工会と出たのは 2 人ですけども、基幹産業と町の経済ということを考えれば、ここの大御所を外していいのかということだったんではないのかなと、受けとめまして、改めてそのことを皆さんにお諮りしたいと思います。幕別町の経済の屋台骨になっているところの商工会と農協団体そのものです。改めて、考え方を聞いた上で、煮詰めるということをご提案されたわけですけど、そこに絞って、皆さんどうでしょうか。これからどんどん広げるってことはちょっと皆さんの雰囲気からいってないかなと思うんですけど。

藤原委員。

- 委員（藤原 孟） 畠山委員の質問に答えるわけではないですけど。当時は陳情が来ました。幕別町のとある経営者の方の名前できました。そういうことであつたので、こういうような意見を聞くということよりも陳情を受けてどうするかということで、当時私は削減の再選をした。それから、何年か経って、削減ということとはある都市で聞いてくると議会崩壊になるよということと言われてきたので、今もう削減、最大に後退しております。やはり、多くの意見を聞くという機会をたくさん持って、いろんな人のいろんな世代の声を聞くために、ただ、前は、これでも今回の削減の陳情が出てればこういう形にはならなかった。今回、陳情が出ないでこういう形になって、非常によかった

と私は思っております。ただ、その責任だとか決定権が、そんなことはないですよ。みんな決定権をもってるし結論も持っている。でも、住民の方に理解してもらわないことには、何の答えもない。もうあと、削減したから報酬上げたからといって選挙があるのか。たった1回0ですよ。他のところはもっと減って、選挙にならないで定数減に実際行っている。そういうことを全部調べていくと。簡単に今、あと1か月か2か月結論を出せる、皆勇気持っているんですか。うちが減らしたら、本当に住民と議員の接触がなくなります。老人クラブの会長が言った通り、農村議員があれだけいたがどこまで減ったのだという意見が出ました。やはり、意見交換しづらいですよ。そういう場を減らすべきではないと思う。

○委員長（中橋友子） 野原委員。

○委員（野原恵子） 今、藤原委員、谷口委員の発言を聞きまして、私は責任は何をもって責任なのか。私たちは、町民に対しての責任を果たさなきゃならない立場だと思うんです。その立場から、議員とはどういう役割を果たすのか、そして定数はどうなのかっていうことを、私は議論していくべきではないかと思って議運にも特別委員会にも臨んでおります。

それで、この報告の中を見ていくと、どういうふうに定数を考えたらいいのかわからない。このままでは、定数削減というのはどう考えたらいいのかという意見も出てまして、これをどうするかっていうこともありまして、まだまだここで私は議論することがたくさんあるのではないかなと思っておりますので、それと団体との意見交換というのは、また別ですので、皆さんの意見を聞きたいなと思います。

○委員長（中橋友子） 考え方としては、まだ皆さんの意見を聞くということですか。

谷口委員。

○委員（谷口和弥） 商工団体だったりとの関係ということの中で、物産協会からも、何でうちが入らないんだと、懇談の枠に入らないんだと、抗議の声が私に届いてるということの報告させていただきたいと思います。懇談したいという意味です。

○委員長（中橋友子） ありがたいことですね。

暫時休憩といたします。

（暫時休憩）

○委員長（中橋友子） それでは、休憩をとって最初に、今お手元に事務局から資料を配っていただきました。これまでの定数に関わって、この間、議会が対応してきた経過であります。若干説明いただいているですか。よろしくをお願いします。

議会事務局長。

○議会事務局長（佐藤勝博） ただ今、追加で配付させていただきました資料は、議員定数に関する過去の審議状況であります。

資料は、左側から順にナンバー、委員会名、審議期間、審議経過と結果、委員数、審議回数を記載しており、一番右側には審議結果による定数の動きを記しております。

昭和56年12月に特別委員会を設置し審議してから、直近の平成28年3月に開始した議会運営委員会による審議まで、これまでに全部で9回にわたって特別委員会などを設置

し審議が行われてきました。

この資料を見ますと、先ほど藤原委員がおっしゃられたように、過去は陳情があると特別委員会を設置して審議したという経過がありますが、⑦の平成23年5月に定数削減を求める陳情を受けた際には、6月から議会運営委員会で審議しており、その後、平成26年8月に定数削減に関する陳情を受けた際にも特別委員会を設置せず、議会運営委員会で審議し、いずれも陳情は不採択としております。

先ほど、畠山委員がおっしゃられた直近の定数の見直しに際しては、その起点は議会基本条例施行後1年経過による検証結果を受けて、平成28年3月から29年1月まで約10か月間かけて、議会運営委員会で定数のあり方について調査しております。そのときの対応としましては、議会運営委員会を9回、全員協議会を2回、他町議会との意見交換会として、当時定数を削減した音更町議会と芽室町議会から実際に削減した結果どうなったか、メリットとデメリットなどを含めて確認しております。さらに、石狩市議会などへの先進地視察のほか、議会改革フォーラムとして、昨年芽室町で講師をされた江藤先生をお招きし、講演会と住民の方々とのパネルディスカッションなども行っております。当時はこのような経過を経ましたが、最終的に議会運営委員会の中では意見が分かれ、議論を尽くしたが、見解の統一に至ることはできず、2つの意見をもって議論を終了するとの結論に至りました。その後、平成29年3月に定数を見直すべきとする3名の議員発議による条例改正の提案が可決し、定数を20人から19人に1人削減したものであり、これが直近の改正の状況であります。

○委員長（中橋友子） ありがとうございます。

ご質問ありますか。それに関わって、よろしいですか。

それでは、議事に戻ります。

休憩前に、複数の議員から、再度団体との懇談会。これも特定してですが、商工会、農協、さらに物産協会ということで名前が挙がって、行ってはどうかという意見がございました。

他方、もう繰り返してきたし、同じではないかというご意見もあり、団体の懇談はいかがなものかというのもありました。最終的には皆さんの意見をまとめて決めたいと思います。いきなり多数決というのもなんですから、さらに意見がありましたら、出していきたいと思えます。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 団体の方々、もっと多くの方に聞くというのは、大事なことだと思います。しかしながら、今回団体決めるにあたって、その辺も加味してその中からこういった団体にしようということを決めて、今回、意見交換を行いましたので、ここ一区切りでもいいという気はいたします。やはり憶測ですが、多様な意見が当然また出てくるとは思いますが、それであれば、どこまで聞いていくのかという部分も、また新たに出てくる可能性もありますし、やはり、今回、6団体の話で、ほぼ、意見を伺ったという部分でいいのではないかと思います。

○委員長（中橋友子） 6団体でいいのではないかという意見でありました。いずれにしても、例えばこれから団体の方に意見を聞いていくということをご提案ありましたから、きちっと押さえていきたいと思うんですが、無限大に広がっていくということは、難し

いと思います。したがって、言われているのは、基幹産業の主軸の農協と、それから商工会、そして、これはまだ皆さんに図っていませんが、物産協会さんからはなぜ声がかからなかったんだということがあったという事実の報告でございました。こういったところ限定して考えて、それでも、ここで終わっていいんじゃないか。あるいは、そこまで言うならその三つは大事なところだから、そこだけは、意見交換をして、結論に行くと言う二通りです。どうでしょうか。

小島委員。

- 委員（小島智恵） 経済団体と話し合ったんですけども。私は農協青年部女性、そして商工会の青年部にさせていただきましたけども、それは、議員のなり手不足、若い方の話を聞いていこうというご意見があって、こちら側から依頼したんだと思うんですね、そういった意図があって今回聞いたんだと思うんです。なので、私はちゃんと適正に行われてきたのかなと思っております。
- 委員長（中橋友子） 今までの団体は、こちら側から決めさせていただきました。事務局に骨折っていただいて、委員長副委員長あるいは議長とも相談しながら決めさせていただいたんですけど、小島委員おっしゃられるような視点と、もう一つは、例えば老人クラブ連合会だとか民生児童委員は、決して若くはありませんでした。しかし、そこには若い方でなくて、いろんな町の中で努力されている方たちから見て、議会はどうなんだという思いがありまして、声をかけさせていただいたということですから、そこは押さえていただきたいと思います。他にございますか。どっちにしても、自分たちがやらなければいけないので、やっていくかやらないか、そこは、なるべく多数決はしたくないんですけども、しなきゃだめですか。

荒委員。

- 委員（荒 貴賀） やはり議会は住民とともにあるものなんです。そういった声がある以上は、議会として、真摯に向き合う必要はあるんだと思うんですね。議員が、こういった態度で臨んだのかということにも繋がってくるのではないかなと思います。先ほど谷口委員も言いましたけど、議員の責任というのはこういうところなのかなと思いますので、やはり、住民の要望や団体からの声があるのであれば、私は真摯に向き合って、対応するということができただろうと思いますし、その声は、やはり町の経済を代表される方ですから、そうした方たちと議会がどうあるべきかという議論をするということは、やはり重要であると思っています。
- 委員長（中橋友子） ありがとうございます。

藤谷委員。

- 委員（藤谷謹至） やはり最初からみんなに声をかけて、その中で、これは無理ですというんだったら話わかるけれども、一度終わって、さらに聞くというところは失礼だと思うんですね。なんで私のところに聞けなかったのという意見もさっき言ってましたけれども、それがないように全団体に聞くべきだったと思うし、もう1回終わった中で、さらに聞くというのは私はもう必要ないのではないかなと思いますね。
- 委員長（中橋友子） 最初の選び方が、どうだったのかということは十分検討する必要があると思いますが、かなり苦労して決めたことは事実なんです。サポートしていただきましたから、その上で、断られたところも報告したようにありましたので、そんな流

れでここまで来ました。区切りっていうのはあくまでもこのことでありますから。団体の皆さんに、もう終わったんだよ、あなた達には二番煎じだよというようなことはありません。それは姿勢としては持ちません。その上で決めていきましょう。もうここができたらず賛否しかないかなと。どうでしょうかね。

石川委員発言ないのですがどうでしょうか。

石川委員。

- 委員（石川康弘） 今まで色々お話をお伺いしましたが、どれも間違いではないと思います。私が一番気にしていたのは、老人クラブの話が出てましたけれども、無投票という事態を招いた真の要因は、定数の多さではなく、町民自身の町政に対する姿勢があなた任せなりすぎていることにあると述べられてはいるんですけど、ここを私は重要視をしておりました。私はやはり、定数や報酬についても、一番よくわかってるのは私たち議員自身がよくわかっていると思います。町民に聞いても、いや、わからないという意見が多いです。議員でないわけですから。私たちが議員活動をしていて、その定数が多いのか、少ないのか、報酬は高いのか低いのかね。それを一番、今までもお話を聞いてね、議論して、理解されているのは、私たち自身が、どちらかに思いがあるんです。ですから、そういう意味では、これ以上聞いてもね、何か堂々めぐりかなっていうふうに、小田委員がさっき言われたような意見も、非常に大事かなと思います。ですから、報酬ね、定数については、私たちが最終的に決めて、それに対する責任を背負って、町民に対して活動でお返ししていくということが一番大事で、どのように返していくのかということに重点を置いていくべきかなと私は思います。

- 委員長（中橋友子） ありがとうございます。あとはよろしいですか。

田口委員。

- 委員（田口廣之） 自分も中抜けしてしまっただけで申し訳なかったんですけども。議論は、ある程度尽くされたと思っています。その中で、定数と報酬の方向性は、責任を持って、議員が決めていく立場にあるのではないかなと思います。あっちに聞くこっちに聞くではなくて、もうそこは、判断されるのは町民の方であって、自分たちの最終判断っていうか、その定数にしても、自分たちの決めた方向性で、町民の考え方に、寄り添って決めていかないといけないことではないかなと、自分たちで。だからこれ以上、意見を聞くということは、必要ないのではないかなと思います。

- 委員長（中橋友子） わかりました。

大方の方のご意見をいただいたと思います。それで今伺った意見の中では、団体の意見を、もうあと3団体2団体もしくはもう1団体というのが具体的にありました。それに賛同するご意見もありましたから、大変貴重な意見だと思います。ただ全体を通しては、もうここでいいのではないのかなという意見が多数に感じます。それを受けとめて、今日は、これで終わりにしまして、次のステップに進むと。つまり、今これ以上団体の意見のことについては、役員では相談させていただきませんが、大方の皆さんの意見は、もうこれでいいのではないかなということがありましたので、そこを受けとめて、相談をさせていただきたいと思います。したがって、これから次は、いよいよ結論に入っていくこととなりますので、そこでもまた皆さん、率直なご意見でいただけるようにして、今日は終わりたいと思うんですけど、どうでしょうか。よろしいですか。

(異議なしの声あり)

- 委員長(中橋友子) そしたら、そういう形をとりたいと思います。
他に皆さん、ご意見ありませんでしょうか。

(なしの声あり)

- 委員長(中橋友子) それでは、次回の委員会については、5月8日が実は、臨時議会そのときがいいのか、あるいは、11日12日。または11日から15日まで。いずれも連休明けですが、日程を組むことはできます。今日の皆さんのご意見を伺い、これまで交えていただいた町民や団体の皆さんの今日の、お手元にある資料も十分、皆さんそれぞれ受けとめていただいた上で、それぞれの考えを、次は述べていただいて、まとめに入っていくということになろうかと思えます。したがって、そのあとまとめに入ることも含めて、8日でもいいのか、11日。12日がいいか。

(難しいの声あり)

- 委員長(中橋友子) では、次回は5月15日午前10時からということで、予定してください。

以上をもって、本日の案件は終了いたしました。

これをもって、本日の委員会を閉会いたします。

(閉会 15:29)